

福祉教育 プログラム案

しゃ かい ぶく し
社会福祉ってなんだみ?



目 次

- 1 福祉教育ってなんだろう？ ····· P 1
- 2 福祉教育の効果 ······· P 1
- 3 社協との協働による福祉教育 ··· P 2
- 4 社会福祉推進校事業について ··· P 3
- 5 福祉教育プログラム案 ····· P 4～P 10
- 6 まとめ ······· P 11
- 7 様式集 ······· P 12～P 18



1 福祉教育ってなんだろう？

「福祉教育」と聞いてどのようなことを思い浮かべますか？
福祉教育＝車いす体験、視覚障がいの体験等々思い浮かべていただけましたでしょうか。「ふ・く・し」と聞いて対象が「高齢者」「障がい者」「社会的弱者」とされていたことも過去にはありました。最近は徐々にその考え方があわせてきています。「ふ・く・し」とはどのようなことなのでしょうか。

「ふ・く・し」とは、高齢者や障がい者など特定の誰かのためのものではなく、社会に暮らす全ての方を包括したものです。

つまり「ふ・く・し」とは、みんなの

ふ ・・・ ふだんの
< ・・・ くらしの
し ・・・ しあわせ

を意味し、福祉教育とは、それを伝えるということになります。
言い換れば、福祉教育とは、「包括的な社会教育」とも言えるのです。

2 福祉教育の効果

上記のとおり、「福祉教育」とは「包括的な社会教育」とも言えます。福祉教育を実施することで下記のような効果が期待できます。



(1) 「共に生きる力」を育む

子どもたち一人ひとりが、自分自身が価値のある存在であること（自尊感情）や命を大切にすることを学び、「共に生きる力」を育みます。

(2) 「地域の一員としての意識」を育てる

「地域による地域のための福祉教育」により、地域のさまざまな人たちとの出会いを通じて、共にくらす地域の一員としての意識を育てます。

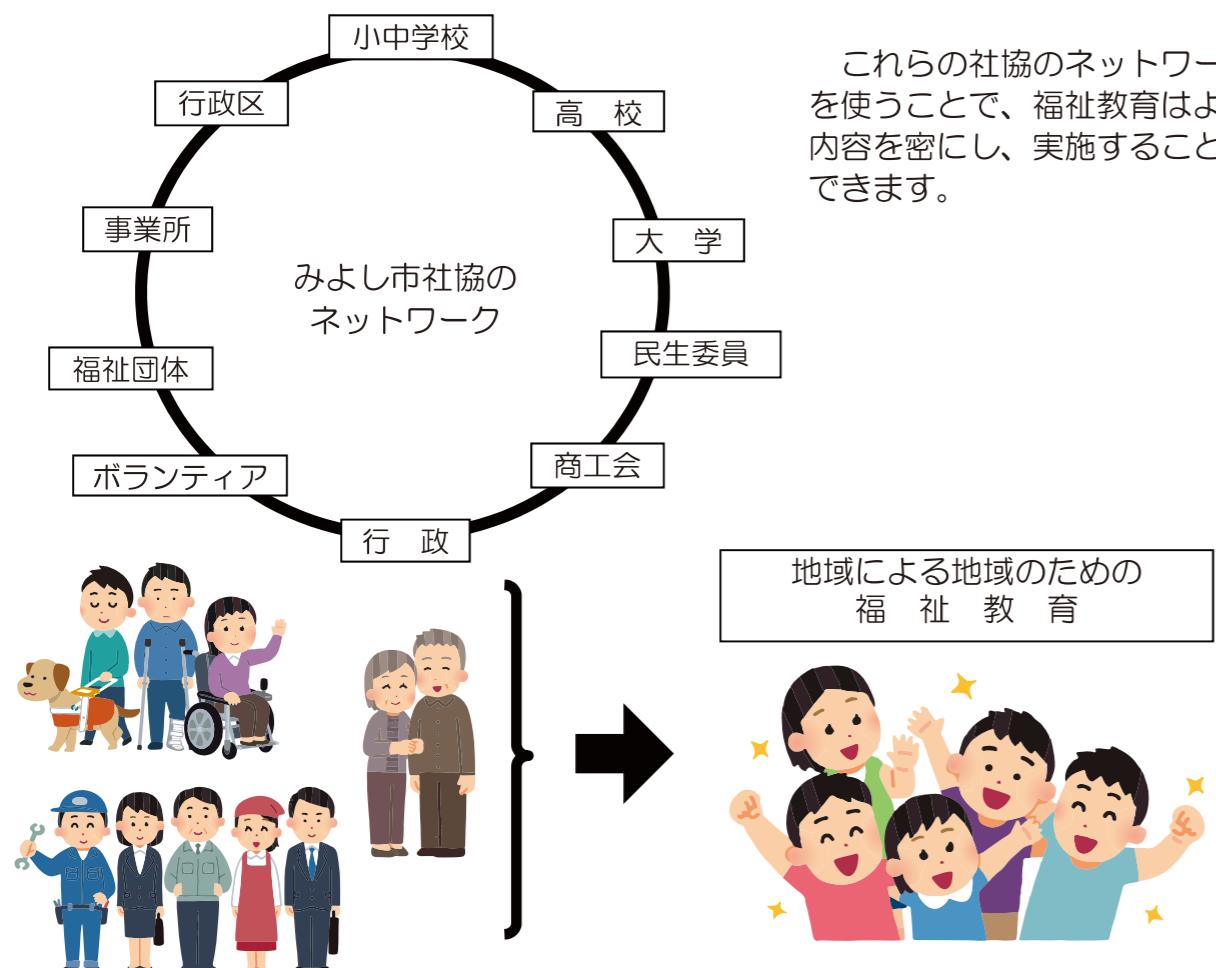
3 社協との協働による福祉教育

【社協とはどんなとこ??】



社会・・・みんなが
福祉・・・ふだんのくらしのしあわせを
協議会・・・はなしあう
ための仕組みづくり

社会福祉協議会は **民間の組織** です。しかしながら行政とは切っても切れない関係にあります。つまり、「行政ではできないこと」と「民間だけではできないこと」の狭間にあることに対し柔軟に対応することができます。また、地域でのネットワークも持っています。



社協だけではなく、地域のあらゆる方が参加する福祉教育を実施することができ、本来の目的である「地域による地域のための福祉教育」へ一歩近づくのです。

4 社会福祉推進校事業について

みよし市社会福祉協議会では「社会福祉推進校事業」を実施しています。

(1) 目的：みよし市内の小学校、中学校及び高等学校の児童、生徒を対象に、社会福祉に関する実践学習の機会を提供し、社会福祉への理解と関心を高め、ボランティア、社会連携の精神を養うとともに、地域社会の一員であるという自覚と地域社会との連携の精神を養い、「福祉のまちみよし」のまちづくりを推進する。

(2) 助成金額

小学校	1校につき	40,000円(年額)
中学校	1校につき	50,000円(年額)
高等学校	1校につき	50,000円(年額)

みよし市社会福祉推進校助成金の使途事例

項 目	使 途
旅 費	事業に係わる担当教諭および児童・生徒等の旅費
謝礼金	福祉講演会・福祉研修会・職員研究会等の講師謝礼等
経 費	
(1)備品費	清掃道具・点字器など活動に必要な機材の購入代
(2)消耗品費	画用紙・原稿用紙・種・球根・フィルム・写真代・折り紙・マジック・サインペン・アルバム等の購入代
(3)通信運搬費	ハガキ・切手等の購入、物品の運搬代
(4)会議費	会場等の使用料
(5)印刷製本費	活動報告集・感想文集等の作成費、印刷物等諸費
(6)調査研究費	福祉教育研究協議会・研修会等の参加費、参考図書・資料購入代、映画・ビデオ等の借上料、ビデオフィルム等の購入代

福祉実践教室の開催にかかる費用に充てることができますので、ご活用ください

5 福祉教育プログラム案

福祉教育の実践において固定化されたプログラムは実在しません。学校のある地域やそこに暮らす人や地域性に合わせたプログラムを実践することで福祉教育の充実度も向上します。

かつての福祉教育では「体験型」といわれる「車椅子体験・点字体験・手話体験」など体験を行うだけの福祉教育が行われていましたが、その結果、「かわいそう」というイメージを抱いてしまう負の学習につながってしまうことが分かり、現在では、体験だけで学びを終えるのではなく、体験を通して当事者の生活（生活機能）のプラスの面に着目した福祉教育プログラムの展開の必要性が高まっています。

また、児童・生徒の理解度によってもプログラムの内容は変化します。

ここでは、数多くの分野の中から
5つの分野に絞って、さらに段階を
追って、「ア、知る イ、考える
ウ、やってみる」の3段階に分けて
プログラムをご紹介します。



===== 紹介するプログラム案 =====

- (1) 肢体不自由の理解
- (2) 聴覚障がいの理解
- (3) 視覚障がいの理解
- (4) 発達障がいの理解
- (5) 高齢者の理解
- (6) その他

(1) 肢体不自由の理解

車いすを使う人の生活はどんな生活？？

知る

- 車いすを使う人の生活を聞いてみる
- 車いすの操作方法を知ってみる
- 車いすを使う人が感じていること、思っていることを聞いてみる



考える

- 児童・生徒同士でどのようにすれば課題を乗り越えられるか話し合う
- 児童・生徒同士で車いすでの生活を想像し、自分たちと変わらないことはなにかを話し合う



やってみる

- 校内での生活を、車いすを使いながら体験してみる
- 体験して感じたことを児童・生徒同士で話し合ってみる
- 地域の一員として暮らすにはなにが必要か話し合ってみる



品 名	用 途
車いす	車いす体験

※上記の備品は数に限りがあります。その他、福祉用具の業者もご紹介できます。

【社協との関わり】

- 児童・生徒たちへの福祉の概要説明
- 福祉備品の貸出
- 福祉備品のポイントの助言
- 振り返り学習への助言

(2) 聴覚障がいの理解

耳が不自由だとコミュニケーションがとれない??

知る

- 聞こえないってどんなことか知る
- どんな風に聞こえているのかを知る
- 聴覚障がいのある人のコミュニケーション方法を知る
(口話・補聴器・筆記・手話・身振り・空書き・指文字・絵など)



考える

- 児童・生徒同士で、耳が不自由な人の生活のなかで、どんなこと苦労があるのか考える
- 生活の中でも、自然に目で伝える方法を考える
- 耳の不自由な人と自分たちが変わらないことはなにかを考えてみる



やってみる

- お友達と手話や・要約筆記でお話してみよう
- 体験して感じたことを児童・生徒同士で話し合ってみる
- 地域の一員として暮らすにはなにが必要か話し合ってみる



※手話講師は、豊田みよし聴覚障害者協会（あいち聴覚障害者センター）から派遣されます。

【社協（福祉教育用）貸出一覧】

品 名	用 途
OHP	要約筆記の体験

※上記の備品は数に限りがあります。その他、福祉用具の業者もご紹介できます。

【社協との関わり】

- 児童・生徒たちへの福祉の概要説明
- 福祉備品の貸出
- 福祉備品のポイントの助言
- 振り返り学習への助言

(3) 視覚障がいの理解

目が不自由な人は文字が読める??

知る

- 見えないってどんなことか知る
- 目が不自由な人のコミュニケーションの方法を知る
- 点字の歴史・仕組み・打ち方・ルールについて知る（資料を交えて）



考える

- 児童・生徒同士で、目が不自由な人の生活のなかで、どんなこと苦労があるのか考える
- 点字があることで、視覚障がいのある人たちがどんなことができるようになるか考える。
- 目の不自由な人と自分たちが変わらないことはなにかを考えてみる



やってみる

- 目の不自由な人の生活を想像しながら点字の打ち方一覧表に従って点字器を使ってみる
- 体験して感じたことを児童・生徒同士で話し合ってみる
- 地域の一員として暮らすにはなにが必要か話し合ってみる



【社協（福祉教育用）貸出一覧】

品 名	用 途
盲導犬	盲導犬体験の見学
アイマスク	視覚障がいの体験
点字器	視覚障がい者の体験

※上記の備品は数に限りがあります。その他、福祉用具の業者もご紹介できます。

【社協との関わり】

- 児童・生徒たちへの福祉の概要説明
- 福祉備品の貸出
- 福祉備品のポイントの助言
- 振り返り学習への助言

(4) 発達障がいの理解

お互いのことじっくり知ってみよう

知る

- 自分たちが「障がい」についてどんなイメージをもっているか振り返る
- なぜそのようなイメージになってしまふか振り返る
- 障がいのある人の感じ方、考え方を知る



考える

- 伝わりやすい伝え方を考えてみる
- パワーポイントやお芝居を織り交ぜて、障がいの特性や関わり方を考える
- 適切な配慮があることで、障がいのある人たちがどんなことができるかを考える。



やってみる

- 伝わりやすい伝え方を児童・生徒同士でやってみる
- 体験して感じたことを児童・生徒同士で話し合ってみる
- 地域の一員として暮らすにはなにが必要か話し合ってみる



(5) 高齢者の理解

年齢を重ねるってどんなこと？？

知る

- 年齢を重ねると身体にどんな変化があるか知る
- 年齢を重ねると心にどんな変化があるか知る
- 年齢を重ねることの良さを知る



考える

- 認知症の特性を周囲はどうやって理解し、どう対応すればよいかを話し合ってみる
- 高齢者の良さを活かした課題を乗り越える方法を話し合ってみる



やってみる

- 高齢者体験から相手の気持ちを体験し、関わり方を学ぶ
- 体験して感じたことを児童・生徒同士で話し合ってみる
- 地域の一員として暮らすにはなにが必要か話し合ってみる



【社協（福祉教育用）貸出一覧】

品名	用途
高齢者擬似体験セット	高齢者の身体的特長を体験

※上記の備品は数に限りがあります。その他、福祉用具の業者もご紹介できます。

【社協との関わり】

- 児童・生徒たちへの福祉の概要説明
- 福祉備品の貸出
- 福祉備品のポイントの助言
- 振り返り学習への助言

【社協との関わり】

- 児童・生徒たちへの福祉の概要説明
- 振り返り学習への助言

(6) その他

あなたができるSDGsを見つけよう

知る

SDGsとは何か。個人でも取り組めるということを知る。

- 自分も地域の一員であることを知る。
- 個人や地域レベルの身近な取り組みと身近な課題が、世界共通の課題と関連していることを知る。
- 1つの取り組みがSDGsの複数のゴールに関連しており、一つの取り組みが複数の課題の解決に貢献できることを知る。逆に、ある課題解決には関連する他の課題解決も必要であることを知る。
- SDGsに取り組むきっかけのひとつとして、風水害24ゲームを体験し、自分の命と周囲の命を守るためにどう行動すればよいかを知る。



考える

- 誰もが自分らしく暮らせる社会を世代を超えて実現するために、今何ができるかを個人や地域の一員として必要なことを考える。
(SDGs ビンゴカード例の配布)
- 風水害24ゲームを体験して気づいたことや感じたことがSDGsとどうつながっているかを掘り下げて考える。



やってみる

- 「考える」で考えたことをグループで意見交換し、各自でSDGsビンゴカードに記入する。
チャレンジ期間を設けて実践する。
- 風水害24ゲームも体験した場合には、ワークシートにまとめて行動宣言をする。



【社協との関わり】

- 児童・生徒たちへの福祉の概要説明
- 福祉備品の貸出
- 福祉備品のポイントの助言
- 振り返り学習への助言

★SDGsとは
2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。
17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

6 まとめ

ここまで6つの分野についてプログラム案を述べてきましたが、他の科目と同じく福祉教育においても「振り返り学習」が大切です。

準備

- どんな「ねらい」「目標」や「達成目標」を設定するか
- どんな「学習素材」や「地域の人材」を活用したプログラムを行うか
- どれだけ「時間数(単元)」を使い行うか

準備の段階で社協にご相談ください

実施

- どんな「気づき」があったか
- どんな「学び合い」があったか
- どこまで「目標に達成できたか」
- どんな「行動につなげる」ことができたか
- これから「どんな学び」をしていきたいか

「福祉教育」は地域の様々な力によって実施できるものです。

社会福祉協議会では独自のネットワークを使い、より多くの方に協力を求めながらより充実した福祉教育の実施のために力を尽くします。



7 様式集

児童・生徒の福祉実践教室実施要項

1 目的

障がい者や、高齢者等さまざまな人が暮らしている地域社会を、「ともに生きる」明るい社会にすることは、児童・生徒を含む地域で暮らす住民のすべての願いです。

そこで、この教室は、児童・生徒が、障がい者や高齢者等との交流を通して、地域の福祉課題や生活課題に気づき、日常的な実践活動へと広げていく契機とするために開催するものです。

2 実施主体

社会福祉法人みよし市社会福祉協議会

3 実施対象

実践教室の目的に賛同し、実践教室の実施を希望する小・中・高等学校の児童・生徒

4 実施期間

4月1日から翌年3月31日まで

5 実施内容

科目	内容
1 車いす	・肢体不自由について
2 手話	・聴覚障がいについて
3 要約筆記	
4 点字	・視覚障がいについて
5 P R犬（盲導犬）	
6 視覚障がい理解	
7 発達障がい理解	・発達障がいについて
8 高齢者理解	・認知症サポーター講座など
9 その他	・地域交流活動 ・その他、特に希望する科目

6 事務手続き

福祉実践教室の実施の申し込みの際に以下の書類をご提出ください。

※講師、内容等の調整がありますので実施予定日の2か月前までに申請してください。（P R犬（盲導犬）を希望の場合は3か月前まで）

7 申請書類

- (1)依頼文・福祉教室実践計画書（様式1）
- (2)福祉実践教室計画書（様式2）
- (3)児童・生徒の福祉実践教室実施申請書（様式3-1、様式3-2）
- (4)児童・生徒の福祉実践教室の概況調査（様式4）
- (5)児童・生徒の福祉実践教室申込書（講師・P R犬派遣依頼）

様式1

第 号
年 月 日

社会福祉法人みよし市社会福祉協議会
会長 様

学校名
学校長

福祉実践教室の実施について（依頼）
このことについて、下記のとおり実施したいので貴会のご協力をお願いいたします。
記

1 日時

第1希望：
第2希望：
第3希望：

2 場所

3 希望内容

4 対象者

5 計画書

別紙「福祉実践教室計画書」のとおり

担当：
電話：
ファクシミリ：

様式2

福祉実践教室計画書

1 授業のねらい

2 日時

第1希望： 年 月 日 時 分から 時 分まで
 第2希望： 年 月 日 時 分から 時 分まで
 第3希望： 年 月 日 時 分から 時 分まで

3 場 所

4 内容

5 対象者

6 連絡先
担当：
電話：
フックス：
アカシキ：

様式3－1

児童・生徒の福祉実践教室実施申請書

<実施校→市町村社協→県社協>

第 号
年 月 日

社会福祉法人みよし市社会福祉協議会
会長 様

学校名	学校
学校長	
担当教諭	
電話	() -
F A X	() -

※学校長印の押印はどちらでも可

1 実施希望年月日

	年 月 日	時 間
第1希望	年 月 日 ()	午前・午後 時 分 ~ 時 分
第2希望	年 月 日 ()	午前・午後 時 分 ~ 時 分
第3希望	年 月 日 ()	午前・午後 時 分 ~ 時 分

2 希望科目 (希望する内容に○印を付けてください。)

区分	肢 体 不自由	聴覚障害		視 覚 障 害			知的障害	高齢者等	その他の
科 目	車 い す	手 話	要 約 筆 記	点 字	盲 導 犬	視 覚 障 が い 理 解	発 達 障 が い 理 解	高 齢 者 理 解	地 域 交 流 活 動 等
○ 欄									

様式3－2

3 実施内容

時 間	科 目	学年・クラス内訳 年 組	参加者数 名	会 場 名	
				晴天の場合	雨天の場合
～	開 講 式				
～	1 講 義				
～	2				
～	3				
～	4				
～	5				
～	6				
～	閉 講 式				
参加児童・生徒、教諭参加者数 _____名					

※ 実施校は、実施申請書（様式3－1、3－2）・概況調査（様式4）により当該市町村社協と調整のうえ当該市町村社協に申請してください。

様式4

<実施校→市町村社協→県社協→協賛団体>

<（講師等決定後）市町村社協→講師・V>

児童・生徒の福祉実践教室の概況調査

市 町 村	この「概況調査」は、福祉実践教室に参加いただく講師等に、あらかじめ学校の特色等を周知するための資料です。各項目、簡潔にご記入ください。
-------------	---

学 校 名	立 学 校	校長名	
住 所		電 話 F A X	() - () -
開 校 年 月 日	年 月 日	生徒数	名
特別支援学級 の 有 無	無 ・ 有 (学級数)	担 当 教 諭 名	
		実践教室担当教諭名	
学 校 の 教 育 目 標	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
福 祉 教 育 目 標	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
年 度 の 重 点 事 業	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
地 域 ・ 学 校 の 概 要			

※ 実施校は、実施申請書（様式3－1、3－2）・概況調査（様式4）により当該市町村社協と調整のうえ当該市町村社協に申請してください。

児童・生徒の福祉実践教室申込書(講師・PR犬派遣依頼)

①社協名 担当者	社会福祉協議会		ふりがな 担当者名:
②社協連絡先	〒 TEL: () FAX: ()		
③希望日時	第1希望	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分	
	第2希望	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分	
	第3希望	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分	
④実施校名	小学校 ふりがな (担当教員名:)		
⑤学校連絡先	〒 TEL: () FAX: ()		
⑥実施形態	<input type="checkbox"/> 他の講座と同時開催 <input type="checkbox"/> 盲導犬講座のみでの開催		
⑦講演内容	<input type="checkbox"/> A コース: 講師と PR 犬(実演) <input type="checkbox"/> B コース: 講師(盲導犬ユーザーの講話) ※送迎可能な最寄駅【 】		
⑧申込み主旨			
⑨参加人数	約 名 (学年:)		
⑩当日の打合せ	<input type="checkbox"/> 社協担当者 <input type="checkbox"/> 学校担当者		
⑪その他・連絡事項			
⑫請求書宛名	<input type="checkbox"/> 社協宛 <input type="checkbox"/> 学校宛		
⑬協力金支払方法	<input type="checkbox"/> 当日支払 (領収書: <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 不要) <input type="checkbox"/> 振込		

*郵送、FAX、E-mail でお申し込みください。

*当訓練センターから連絡する際、ご都合のよい時間帯がございましたらお知らせください。

(時 分 ~ 時 分頃)



社会福祉法人 中部盲導犬協会 盲導犬総合訓練センター

〒455-0813 名古屋市港区寛政町 3-41-1
TEL:052-661-3111 FAX:052-661-3112
E-mail:chubu@tcp-ip.or.jp

児童・生徒の福祉実践教室確認書(講師・PR犬派遣依頼)

年 月 日

お申込みいただきました件につきまして、下記のとおり受諾いたします

日時	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分
連絡事項	(受付担当:)

*この様式での依頼は、市町村社協が関わる事業で、市町村社協を通じて中部盲導犬協会へ依頼するものに限る。

令和3年6月作成
社会福祉法人みよし市社会福祉協議会
みよし市ボランティア連絡協議会
共同作成

〒470-0224 みよし市三好町陣取山39番地5
TEL: 0561-34-1588
FAX: 0561-34-5860